

<国のリーダー像>号より

- 1. 国のリーダー像【政治家の三要素】
- 2. リーダーとしての鳩山由紀夫
 - 1) 友愛は甘っちょろいのか？
 - 2) 友愛は古いのか？
- 3. 新自由主義の安全ネットとしての友愛主義
- 4. 民主党政権の方向と自省

1. 国のリーダー像【政治家の三要素】

1993年、政治家を志して、大学のころから師として仰いだ方を訪れた。その方は、「政治を志すには3つの要素が不可欠だ」と述べた。

① 求めようとする理想の社会について

明確な像を語ることが出来るか。どうか。今の社会の問題点と解決策を提示しなければならないが、そのためには透徹した歴史観を持っていなければならない。その歴史観は、先人の知恵や過去の歴史に関する見識が養われていなければ生み出すことは出来ない。

② 断固とした決断が出来るかどうか。

国民のために決断したことであれば、どのような困難をも押してその信念を変えることなく断行できるか。決断は結果責任の裏表である。決断したことが失敗に帰すれば、潔くその責任を果たさなければならない。

③ 私利私欲を絶てるか。

権力を得た人は、権力が公のものであるにもかかわらず、私心を満たすために利用しがちになる。私心はそっと入り込むのであって、よほど自制していなければこの罠に落ち込んでしまう。しかし権力者が私心を持って判断したことは、大いに過てることがほとんどだ。

①は、勉強なかでも読書をしなければいけない

②は、胆力を鍛えなければならない

③は、ともすると自らがつかないことさえある。従って、良き友人や師匠を持たなければいけない。

2. リーダーとしての鳩山由紀夫

5月27日の党首討論で、鳩山さんは、持論である友愛社会の何たるかを丁寧に説明していた。一方麻生さんはその理念を「学者や評論家の様」と切って捨てた。100年に一度の不況、五十年続いた政権を交代するべきかが問われている時、理念や歴史観を論じることの出来ないリーダーに、一国の難事を託すことは出来ない。

1) 友愛は甘っちょろいのか？

フランス大革命の際、パリ市民が「自由、平等、博愛（友愛）」と叫び、それを象徴する三色旗を掲げ

てバスティーユ牢獄を開放したのだ。つまり友愛の概念は甘っちょろいどころか血で改革を迫ったフランス国民の叫びだったのだ。ちなみに三色旗では赤が友愛を現している。

「自由・平等・博愛」は、フランスの思想家ルソーがその著書『エミール』で主張したものである。しかし当時、この主張が過激だとして、ルソーは亡命を余儀なくされる。すなわち当時の政権側にとっては危険思想だったのだ。その思想がフランス大革命の思想的バックボーンとなったのだ。

友愛が甘っちょろいと言う人がいたら、むしろ当時のパリ市民に申し訳ないと思わなければならない。

2) 友愛は古いのか？

この友愛の理念はオーストリアのウィーン大学教授リヒャルトに受け継がれていく。汎ヨーロッパ主義により、ヨーロッパ合衆国を作るべしと主張したのだ。このリヒャルトの友愛革命の理念が、現在の欧州連合（EU）につながり、国家を束ねるという世界史上最も新しく大胆な試みに結実して行った。

「友愛」は戦う政治家のそして最も大胆な政治的試みのための理念だった。

ところでリヒャルトは母親が日本人であり、幼い時から日本の影響を強く受けたとされている。友愛精神はキリスト教の精神に由来すると言われるが、私には日本の「和」の精神や村落共同体の「共助」の概念と近いと思われる。

「自由」が行き過ぎて過度の格差社会を生み、挙句には世界中を大恐慌に落とし込んでしまった。

「平等」が過ぎて共産主義の国を作ったが、悪平等が蔓延し混乱のうちに国家は解体していく。友愛の政治的理念が欠けていた為ではなかったか。今こそ友愛は最も新しい政治的理念になろうとしている。

3. 新自由主義の安全ネットとしての友愛主義

新自由主義的改革は、1980年代の英国で、サッチャー首相が「英国病」と揶揄されたぬるま湯体質の社会を改革するために行ったものである。しかしサッチャーは、自らが実施する改革が多くの上層者や、格差を生むことを予め承知していた。そのため友愛主義を政治的な手段として活用した。

それがナショナルトラスト運動や、それを発展させたグラウンドワーク運動なのだ。多くの有償ボランティアを地域改善や職業訓練の場として動員した。希望を失った、地域の活力を失った人々が安い賃金ではあったが、環境の改善や地域遺産の保全に取り組み、意欲と新しいスキルを獲得していった。何よりもこの運動から地域のリーダーが育っていった。その一人が皮肉なことに後にサッチャー後継者であるメジャーを倒すこととなったブレアである。

アメリカでは、非営利セクター就業者の生産年齢人口に占める有償スタッフの割合は、2004年当時で

6%を超えている。(※注)

賃金水準は低いが責任感を失わないよう、なによりも労働は有償であるべきとの理念の下、各種NPOが運営されている。人はいつでも誰かのために、そして社会のために汗を流していることに、希望と自信を持つことが出来るものだ。1995年それを理解した当時の新党さきがけメンバーは、NPO法案を提案実現したのです。私もまた、英国グランドワーク協会と連携して、日本グランドワーク協会の設立に尽力したものです。

しかしその後の日本は友愛主義無き新自由主義が跋扈し、世界でも最も人口当たり自殺者の多い社会を作ってしまった。安全網を整備することなく、弱肉強食型社会を作るのに急激に舵を切りましたから、そこから落ちこぼれた人々が国に、地域に、社会に絶望して行ったのです。

混乱した社会の安全網の再整備は緊急課題です。働き盛りの人々を含む3万人もの人たちが自殺に追い込まれた社会は、大いに病んでいます。年金制度や医療制度改革、そして雇用の拡大が急務です。この改善は容易ではありません。小泉改革で安全網は、ずいぶん傷んでしまったからです。そして麻生政権で必要な財政をずたずたにしてしまったからです。

安全網の根幹部分は制度として国家が責任を持つ必要があります。しかしそれ以上に私たち民主党は、国民がこの危機を乗り切るために、共助の精神、つまり友愛主義に基づく活動を活発にしていくことが不可欠だと訴えなければいけません。

実はこの機能は、昔から日本中でとりわけ農村には色濃くあったのです。田植えも稲刈りも、道普請や林地の整備などに不可欠な共同作業でした。

日本は小泉改革の負の遺産に困惑して、方向転換を模索している真っ只中にありますが、その安全網をすべて財政負担で整備することは出来ないでしょう。そこで友愛主義にもとづくNPO法人の役割を拡大し、機能させることが政治の課題となるはずで

※注：内閣府経済社会総合研究所「政策対象としてのNPO」より

4. 民主党政権の方向と自省

約60年間続いた自民政権に変わって民主党が政権運営するということは、統治方式の抜本的な変更が行われる。今までの政府と政党の関係、内閣と政府の関係、官僚制度、予算システムなどなど、従来自民党が築き上げた制度の見直しが行われることを意味しています。

中曽根内閣での国鉄や電電公社の民営化、橋本政権での経済財政諮問会議の設立など以上の制度変更が行われるべきだと考えています。従来制度は余りにも自民党の権力維持のために作られていた、ある

いはそれを補完する形で官僚の天下りシステムが容認されていたと考えるからです。その制度は、結局国民にとって多額の無駄使いとして予算計上されていたです。この実態をまず明らかにしなければなりません。

さらに政府や地方自治体など「公」が実施すべきこと、そして「自ら」が実施すべきこと、その間の「共」が実施すべきことの整理が急務となるはずで

一方、二大政党制の陥穽にも気をつけなければいけません。私は1980年代のスリランカに外交官として勤務中、かの国の二大政党が国民への人気取り政策で争い、結局は近代化への回り道を選ん

また戦前のわが国はほぼ二大政党でありましたが、政争に明け暮れ国民の信任を失って、政党を否定する大政翼賛会への道を選択してしま

政権交代は容易なことではありません。それを成し遂げることも、それ以上に所期の目的を果たすこともです。しかしそれが出来なければ、国民が真に必要なとしていることを置いて、たんなる権力争奪戦に成り下がってしまいます。この戦いに参加できることは政治家として本望ではありますが、またその責任の大きさも感じつつ、冒頭の政治家としての3つの要素を肝に銘じ、選挙区を飛び回っている毎日です。(了)